

源氏百入寶文庫全

源氏物語  
卷之八  
夕霧



# 源氏百人寶文庫

## 秋景三夕和歌每圖



定家  
秋の夕に  
あき夕の  
あき夕の  
あき夕の

あき夕の  
あき夕の  
あき夕の  
あき夕の

あき夕の  
あき夕の  
あき夕の  
あき夕の

あき夕の  
あき夕の  
あき夕の  
あき夕の

あき夕の  
あき夕の  
あき夕の  
あき夕の

古今集  
六歌僊



源氏百人寶文庫

僧正通昭

名少めぞとわつ身を女良もむ  
こまもちあむた人と人まゝなる如

正東業平

ねぬるあめとささるまゝあめを  
いそとあむもたうほさうらふ

久屋原秀

吹くは秋の葉木のあつれを  
いそとあむもたうほさうらふ

秋撰法勝

我居と如のこゝろまゝをすむ  
世後とち中と人のいひあふり

小野小町

あつれとあつれとあつれとあつれ  
日の上よにうらまめせしは

大伴良房

思ひゆく身も心もあつれとあつれ  
あつれとあつれとあつれとあつれ

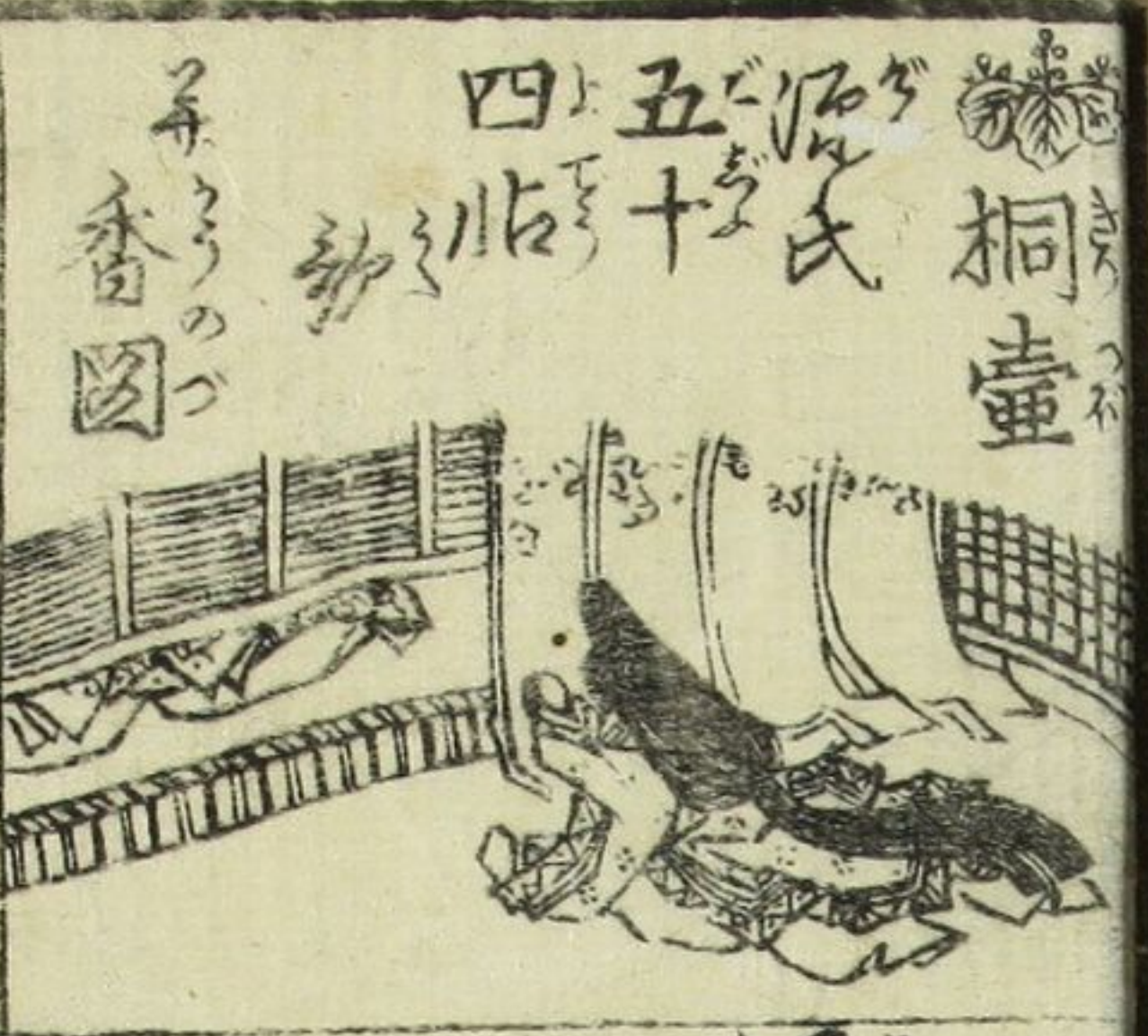


山と  
美を  
定家々  
百首と  
あふ

大智天童  
杖の目くらましの  
巻のまよと  
わがなまよ  
はむらじ



持統天皇  
まよてら  
かたをよ  
うらとほと  
わよのぐと



桐壺  
五十五  
四  
香図

柿本人麿  
尾の志ら  
ふが  
ひくらとほん



木  
か  
あ  
あ  
あ

心色赤人  
目まろ  
う  
あはうらつ



四

空蟬

あめみの  
あそびてくる  
あめみの  
あそびてくる  
あそびてくる  
あそびてくる

夕顔

よるて  
あそびて  
あそびて  
あそびて  
あそびて  
あそびて

三

あそびて  
あそびて  
あそびて  
あそびて  
あそびて  
あそびて

未摘花

あそびて  
あそびて  
あそびて  
あそびて  
あそびて  
あそびて

原氏百八

横江吏

あそびて  
あそびて  
あそびて  
あそびて  
あそびて  
あそびて

中絶き家持

あそびて  
あそびて  
あそびて  
あそびて  
あそびて  
あそびて

女陪仲曆

あそびて  
あそびて  
あそびて  
あそびて  
あそびて  
あそびて

喜梅法師

あそびて  
あそびて  
あそびて  
あそびて  
あそびて  
あそびて



紅毛の笑

めのおひ  
なまま  
べくもあらぬ  
身れそを  
らあふり  
くらまり  
みや



花之宴

つれがごと  
はめの  
やうを  
はなま  
ごころを  
こころ



小野小町

花のうらはれ  
うらか  
我がうら  
ながあせ



蝉丸

うらや  
うら  
志願  
あふ



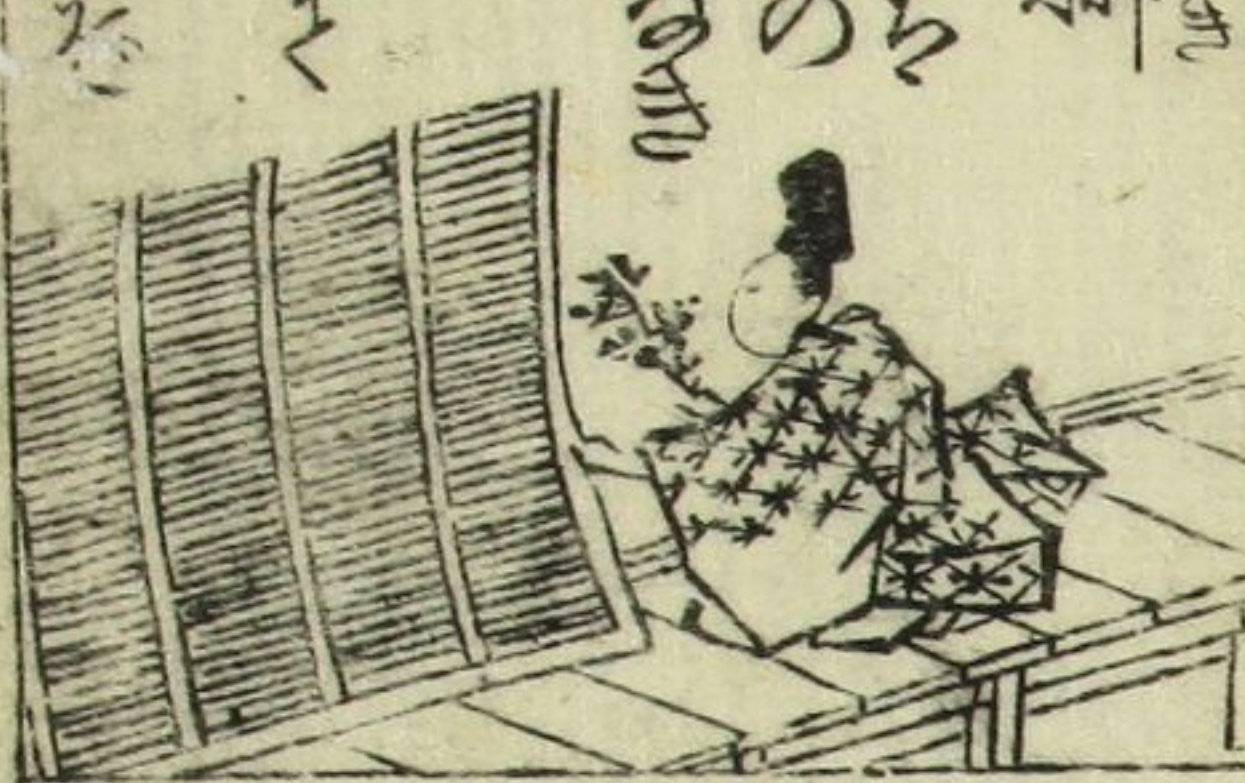
葵

えう  
あひめ  
すま  
の



林

あひめ  
あひめ  
あひめ  
あひめ



あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ



僧正遍照

あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ





遠生



いづれも  
さしつかへ  
なからん  
うらやま  
のたげ



あふれ  
ささる  
せまら  
いろは  
まじり  
ささる  
ささる

弦合



うらや  
みあり  
よも  
まじり  
かき  
あさる

松風



あはれ  
かた  
あはれ  
あはれ  
あはれ

早振



あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ

源氏の朝臣



あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ

伊勢



あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ

元良親王



あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ

源氏百人

薄雲



つり日  
さげ  
まひか  
まひびく  
うん  
うん  
ゆめみ  
ゆめみ  
ゆめみ  
まがらふ

物教



つりたりの  
まね  
まね  
まね  
まね  
まね  
まね  
まね  
まね  
まね

女



あまのこころ  
あまのこころ  
あまのこころ  
あまのこころ  
あまのこころ  
あまのこころ  
あまのこころ  
あまのこころ  
あまのこころ  
あまのこころ

玉葛



あまのこころ  
あまのこころ  
あまのこころ  
あまのこころ  
あまのこころ  
あまのこころ  
あまのこころ  
あまのこころ  
あまのこころ  
あまのこころ

源氏百人

素性法師



素性法師  
素性法師  
素性法師  
素性法師  
素性法師  
素性法師  
素性法師  
素性法師  
素性法師  
素性法師

又左衛門



又左衛門  
又左衛門  
又左衛門  
又左衛門  
又左衛門  
又左衛門  
又左衛門  
又左衛門  
又左衛門  
又左衛門

大は千里



大は千里  
大は千里  
大は千里  
大は千里  
大は千里  
大は千里  
大は千里  
大は千里  
大は千里  
大は千里

菅家



菅家  
菅家  
菅家  
菅家  
菅家  
菅家  
菅家  
菅家  
菅家  
菅家



初音

まろくま  
ひらけて  
あひま  
まろくま  
まろくま  
まろくま  
まろくま



胡蝶

ままぞの  
こころを  
ままぞの  
ままぞの  
ままぞの  
ままぞの  
ままぞの



三條を食

なまの  
あまの  
うねの  
人ま  
くま



貞佐

まろくま  
まろくま  
まろくま  
まろくま  
まろくま  
まろくま  
まろくま



螢

まろくま  
まろくま  
まろくま  
まろくま  
まろくま  
まろくま  
まろくま



常夏

まろくま  
まろくま  
まろくま  
まろくま  
まろくま  
まろくま  
まろくま



中納言

まろくま  
まろくま  
まろくま  
まろくま  
まろくま  
まろくま  
まろくま



源氏

まろくま  
まろくま  
まろくま  
まろくま  
まろくま  
まろくま  
まろくま



篝火

かぎ火  
こもる  
まのま  
こそよ  
とせぬ  
ねがう



野分

うせ  
まらぬ  
まらぬ  
まらぬ  
まらぬ  
まらぬ



剛

とらぬ  
まらぬ  
まらぬ  
まらぬ  
まらぬ



蘭

あられ  
あられ  
あられ  
あられ  
あられ



尾花

あられ  
あられ  
あられ  
あられ  
あられ



志

あられ  
あられ  
あられ  
あられ  
あられ



坂上

あられ  
あられ  
あられ  
あられ  
あられ



春道

あられ  
あられ  
あられ  
あられ  
あられ



卷柱

いさよとよまを  
これぬともろれ  
まきつ  
まきつ



梅枝

さるの香の  
うらや  
まきつ



菖葉

さるの  
さるの  
うらや  
まきつ



若葉

小松木  
さるの  
うらや  
まきつ



紀友則

冬のこと  
のつけ  
あつらふかな  
まのちろん



藤原具風

そ  
あつらふかな  
まのちろん  
まのちろん



紀貫之

人との  
あつらふかな  
まのちろん  
まのちろん



清原深養父

あつらふかな  
まのちろん  
まのちろん  
まのちろん



三 若菜

月まはるる月  
月まはるる月  
月まはるる月

あまの  
あまの  
あまの



あまの  
あまの  
あまの

三 拍木

あまの  
あまの  
あまの



あまの  
あまの  
あまの

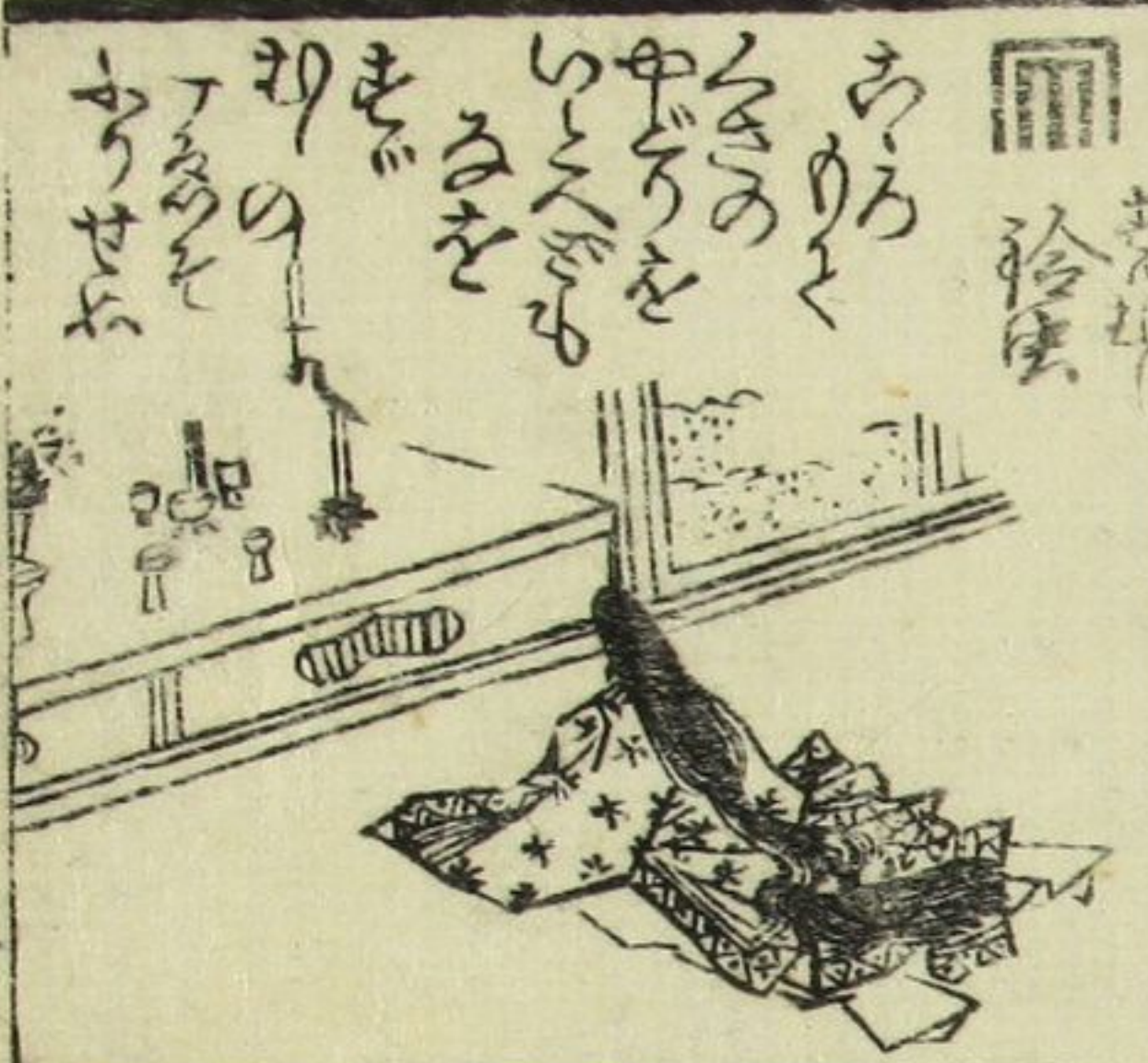
三 横角

あまの  
あまの  
あまの



三 珍貴

あまの  
あまの  
あまの



三 文在綱康

あまの  
あまの  
あまの

あまの  
あまの  
あまの

あまの  
あまの  
あまの

あまの  
あまの  
あまの

三 右近

あまの  
あまの  
あまの

あまの  
あまの  
あまの

あまの  
あまの  
あまの

あまの  
あまの  
あまの

三 泰儀等

あまの  
あまの  
あまの

あまの  
あまの  
あまの

あまの  
あまの  
あまの

あまの  
あまの  
あまの



三 平兼盛

あまの  
あまの  
あまの

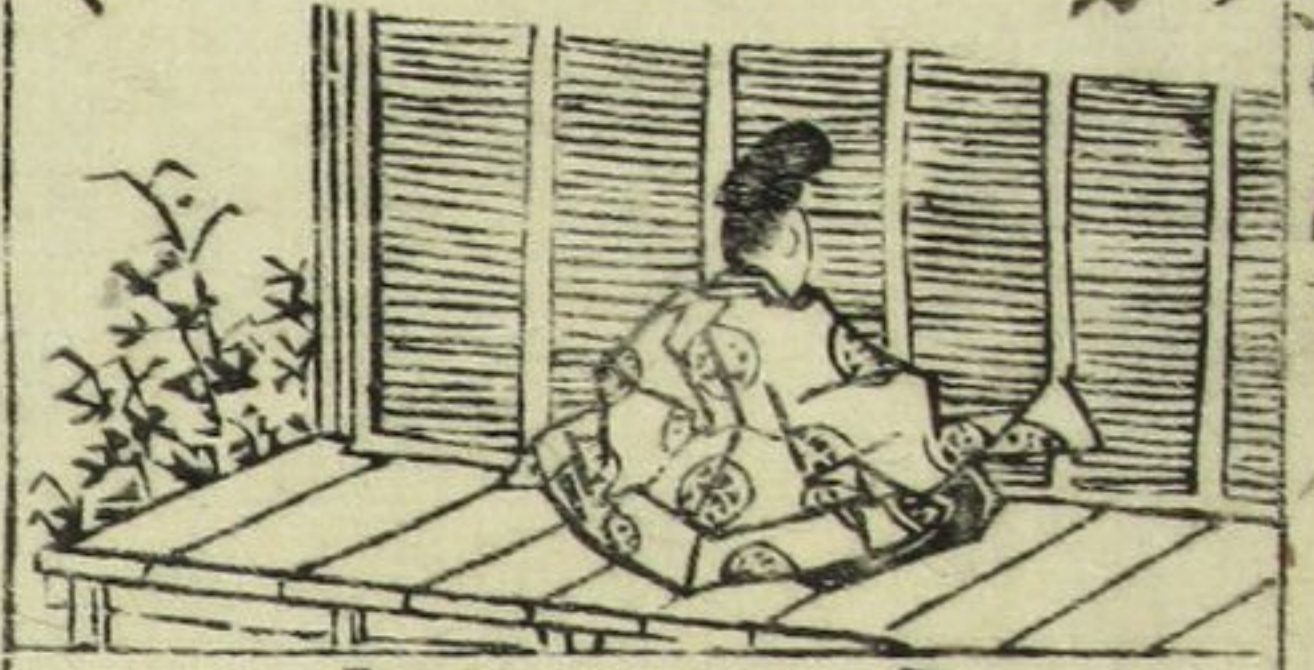
あまの  
あまの  
あまの

あまの  
あまの  
あまの

あまの  
あまの  
あまの



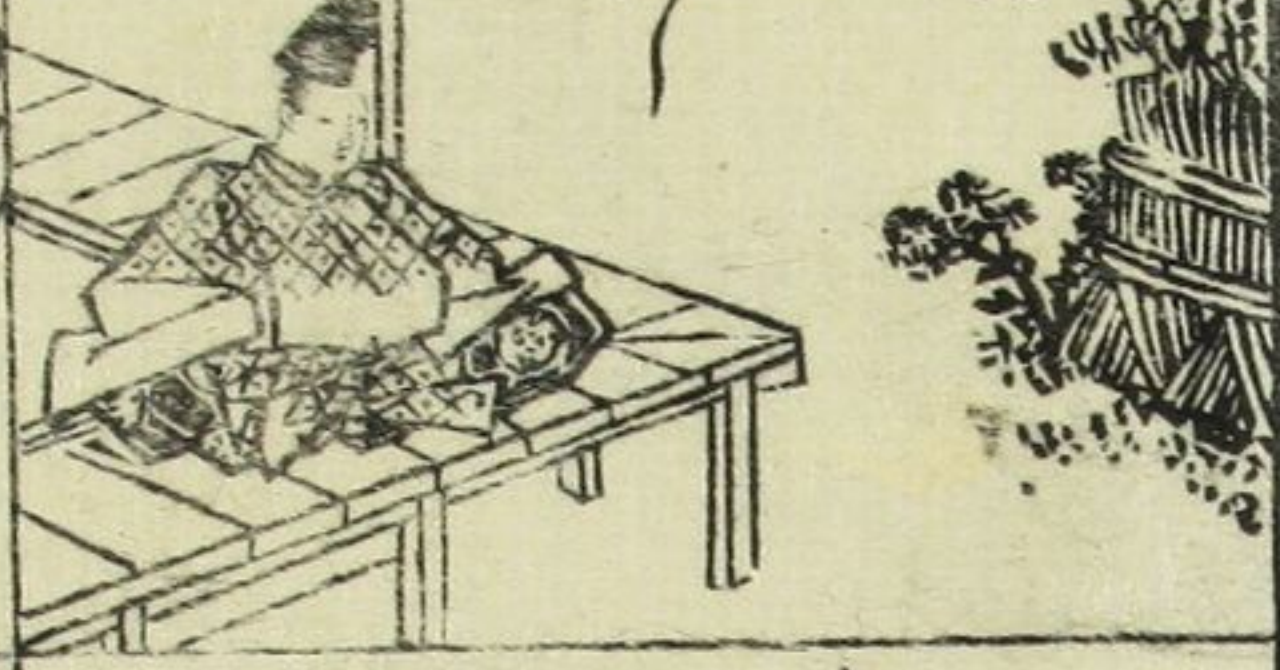
雨夕夢  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの



雨浄法  
たまため  
だき  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの



雨  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの



雨  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの



むせ志見  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの



あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの



あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの



あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの



III 紅梅

紅梅の  
あけのす  
そのあま  
まろくちの  
そのあま  
あまの  
あまの



IV 竹川

竹川の  
けいさ  
いさ  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの



源重之

わらねの  
あはれ  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの



源重之

あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの



源重之

あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの



III 橋姫

橋姫の  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの



III 推幸

推幸の  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの




源重之


あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの



角すみ 後あき  
 まさふ  
 るまき  
 ちきうと  
 ひまびこ  
 まうとこ  
 ようゆ  
 あまえ



早はや 歳とし  
 あのとら  
 られぬ  
 へん  
 うまの  
 か  
 住  
 ぬ  
 ぬ



寄よ 生せい  
 せうきと  
 むのひ  
 りのひ  
 らのひ  
 ひね  
 ひね  
 か  
 か



東あづま 屋や  
 さ  
 さ  
 むぐら  
 まげき  
 あづまの  
 あま  
 あま



中な 長なが 能のう 言ごん 羽は 居い  
 沖おき 垣かき  
 清きよ 土つち の  
 そく 火ひ の 秋あき  
 しんく ち  
 うろく 相あひ 成なり も ち



孫まご 東あづま 義ぎ 孝こう  
 志し 平へい 光みつ  
 り  
 今いま  
 なくも  
 ちりひ



孫まご 東あづま 實じつ 方ほう 朝あさ 臣しん  
 か  
 い  
 う  
 し  
 ら  
 ち  
 ち  
 も  
 の  
 し  
 と

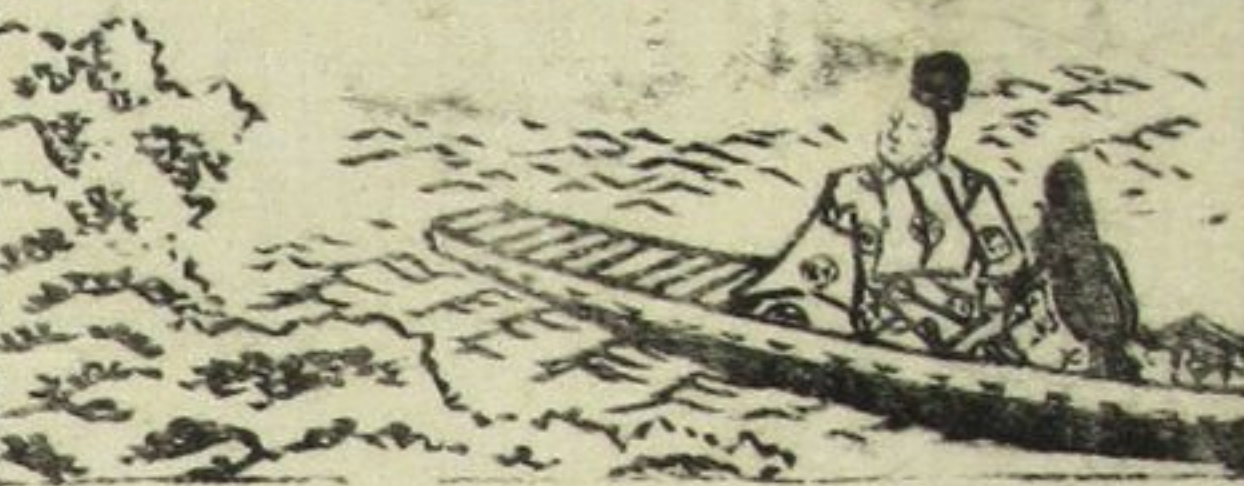


孫まご 東あづま 乃のう 後ご 朝あさ 臣しん  
 お  
 の  
 ち  
 ち  
 ち  
 ち  
 ち  
 ち  
 ち  
 ち



浮船

あつたまの  
うまの  
りりり  
かろくとと  
あつたま  
あつたま  
あつたま  
あつたま



あつたまの  
うまの  
りりり  
かろくとと  
あつたま  
あつたま  
あつたま  
あつたま



自習

あつたまの  
うまの  
りりり  
かろくとと  
あつたま  
あつたま  
あつたま  
あつたま



夢浮橋

あつたまの  
うまの  
りりり  
かろくとと  
あつたま  
あつたま  
あつたま  
あつたま



儀同守母

あつたまの  
うまの  
りりり  
かろくとと  
あつたま  
あつたま  
あつたま  
あつたま



右大納言

あつたまの  
うまの  
りりり  
かろくとと  
あつたま  
あつたま  
あつたま  
あつたま



大納言

あつたまの  
うまの  
りりり  
かろくとと  
あつたま  
あつたま  
あつたま  
あつたま



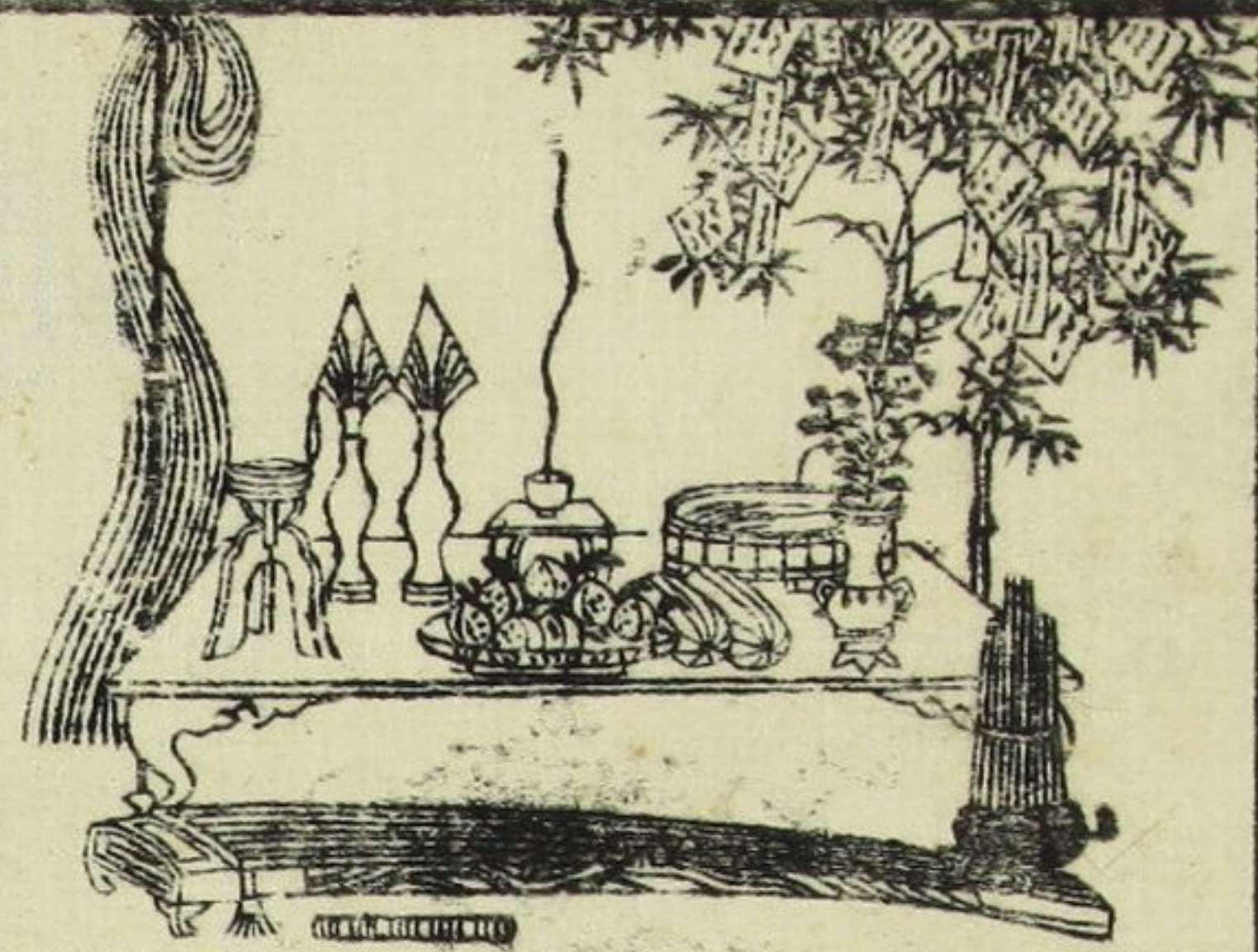
和泉式部

あつたまの  
うまの  
りりり  
かろくとと  
あつたま  
あつたま  
あつたま  
あつたま





七夕祭の圖同古例并歌



○日本七ノ祭りの系  
 始之公事根元お白  
 人皇四十六代孝徳  
 帝比治宇天平勝室

七奉勅して七夕奉りて  
 仍りせあふと又七巧眞  
 の式も先の七夕よるれ  
 翁人清てういさひ  
 夜ふ入り清殿のよふ  
 机と立時花灯の香  
 炉と名香とては盥ふ  
 おと入て早あかげを  
 うら。樂ををさふ  
 盆竿のちあふ色の  
 糸とうけ。此あふく  
 糸をそまへ。一奉と  
 ふ二夜の肉は必ぎけ  
 と。このあまを巧眞とい

式部  
 鳥のあひて  
 有馬やま  
 大式之位  
 有馬やま  
 風ぬあ  
 人  
 月  
 月



有馬やま  
 大式之位  
 有馬やま  
 風ぬあ  
 人  
 月  
 月



赤波  
 月  
 月



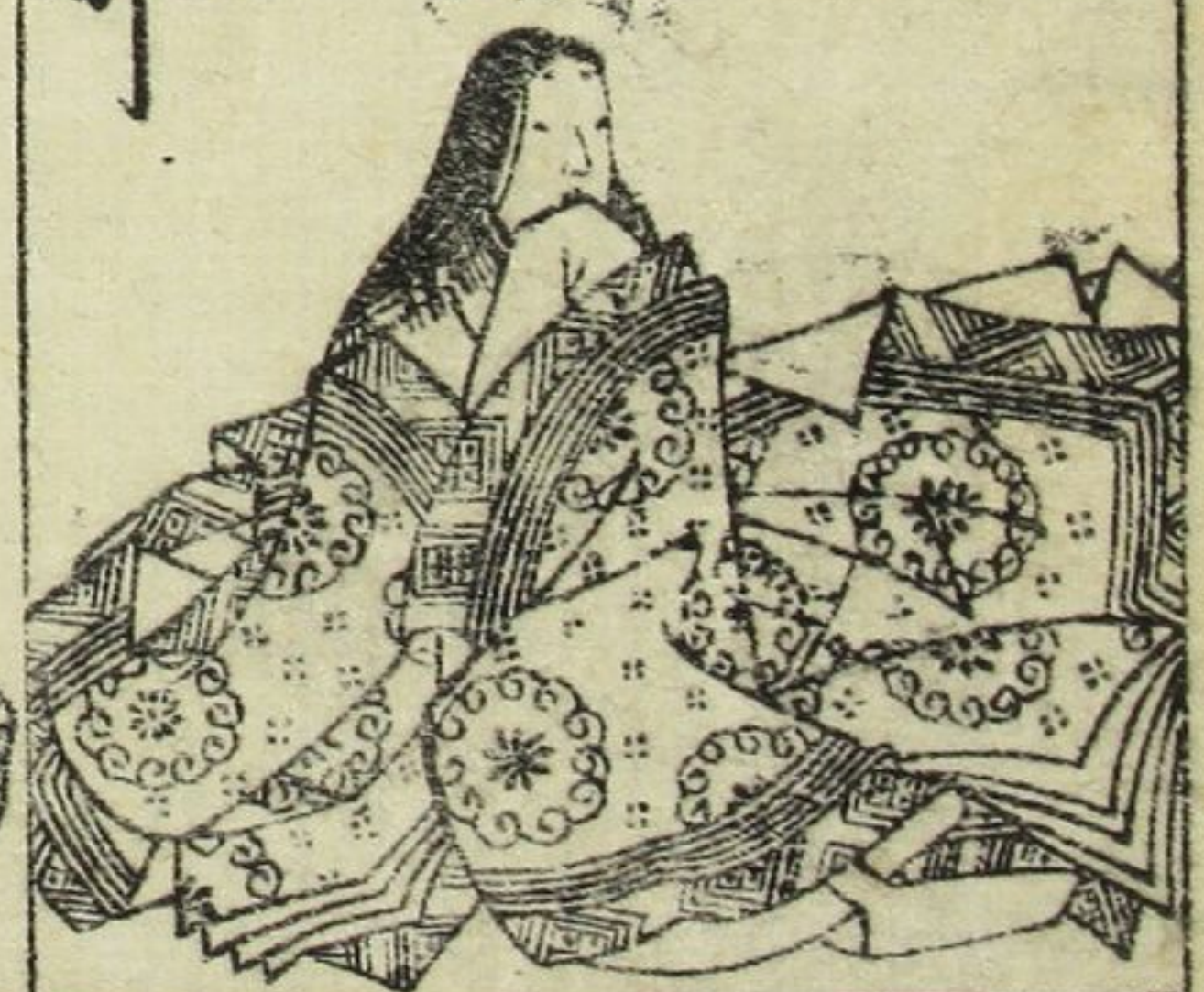
式部  
 鳥のあひて  
 有馬やま  
 大式之位  
 有馬やま  
 風ぬあ  
 人  
 月  
 月



○七々此二里より内  
 侍の事等の事等の事と  
 して記す。此れ  
 家隆の事と云ふは  
 軒の記す。今此の事  
 ○此を修りてと云ふ  
 或の事修りてと云ふ  
 藤原の事其人は後  
 藤原の事其人は後  
 藤原の事其人は後  
 ○天の人の真氣と云ふ

あつたを焼く。此れ  
 舟一の供たる人。香  
 米川流し。此の事七  
 夕香の御香あり。此  
 此の事七。此の事七  
 威儀あり。此の事七  
 此の事七。此の事七  
 此の事七。此の事七  
 此の事七。此の事七  
 此の事七。此の事七  
 此の事七。此の事七

侍の事等の事等の事と  
 して記す。此れ  
 家隆の事と云ふは  
 軒の記す。今此の事  
 ○此を修りてと云ふ  
 或の事修りてと云ふ  
 藤原の事其人は後  
 藤原の事其人は後  
 藤原の事其人は後  
 ○天の人の真氣と云ふ



侍の事等の事等の事と  
 して記す。此れ  
 家隆の事と云ふは  
 軒の記す。今此の事  
 ○此を修りてと云ふ  
 或の事修りてと云ふ  
 藤原の事其人は後  
 藤原の事其人は後  
 藤原の事其人は後  
 ○天の人の真氣と云ふ



侍の事等の事等の事と  
 して記す。此れ  
 家隆の事と云ふは  
 軒の記す。今此の事  
 ○此を修りてと云ふ  
 或の事修りてと云ふ  
 藤原の事其人は後  
 藤原の事其人は後  
 藤原の事其人は後  
 ○天の人の真氣と云ふ



侍の事等の事等の事と  
 して記す。此れ  
 家隆の事と云ふは  
 軒の記す。今此の事  
 ○此を修りてと云ふ  
 或の事修りてと云ふ  
 藤原の事其人は後  
 藤原の事其人は後  
 藤原の事其人は後  
 ○天の人の真氣と云ふ



ちかづきんをばとて七夏の  
 とふらびあつたふら  
 自よあふふれ七夏の  
 ぬる夜のうらまをうけ  
 七夏かけはあつちまて  
 年社をかくこひや海へん  
 海河のよこは海のまお海  
 七夏の七夏のまよとま  
 ありてあまうらう天の海  
 こひのまよとひんあま  
 あつたはあつたあつたあ  
 天のまよとあまうら  
 天の海あつたあつたあ  
 海河のよこは海のまお海

七夏のまよとあまうら  
 あまうらあつたあつたあ  
 天のまよとあまうら  
 天の海あつたあつたあ  
 海河のよこは海のまお海  
 あまうらあつたあつたあ  
 天のまよとあまうら  
 天の海あつたあつたあ  
 海河のよこは海のまお海  
 あまうらあつたあつたあ  
 天のまよとあまうら  
 天の海あつたあつたあ  
 海河のよこは海のまお海

相模  
 うらまをうけ  
 七夏の七夏のまよとま  
 ありてあまうらう天の海  
 こひのまよとひんあま  
 あつたはあつたあつたあ  
 天のまよとあまうら  
 天の海あつたあつたあ  
 海河のよこは海のまお海



正徳院  
 うらまをうけ  
 七夏の七夏のまよとま  
 ありてあまうらう天の海  
 こひのまよとひんあま  
 あつたはあつたあつたあ  
 天のまよとあまうら  
 天の海あつたあつたあ  
 海河のよこは海のまお海



前大僧正御尊  
 うらまをうけ  
 七夏の七夏のまよとま  
 ありてあまうらう天の海  
 こひのまよとひんあま  
 あつたはあつたあつたあ  
 天のまよとあまうら  
 天の海あつたあつたあ  
 海河のよこは海のまお海



周防内侍  
 うらまをうけ  
 七夏の七夏のまよとま  
 ありてあまうらう天の海  
 こひのまよとひんあま  
 あつたはあつたあつたあ  
 天のまよとあまうら  
 天の海あつたあつたあ  
 海河のよこは海のまお海



いふまゝのまのこゝし七々の  
 花はなをあらたき花の  
 七々の花の夜と月とをね  
 むらさきをねを青ねえ  
 天の川とささるまの枝のま  
 むらさきもかきつらうら  
 枝の夜とささるまの枝のま  
 むらさきもかきつらうら  
 万代はあをささるま七々の  
 むらさきもかきつらうら  
 七々の花の夜と月とをね  
 むらさきをねを青ねえ  
 天の川とささるまの枝のま  
 むらさきもかきつらうら  
 枝の夜とささるまの枝のま  
 むらさきもかきつらうら

七々の花の夜と月とをね  
 むらさきをねを青ねえ  
 天の川とささるまの枝のま  
 むらさきもかきつらうら  
 枝の夜とささるまの枝のま  
 むらさきもかきつらうら  
 万代はあをささるま七々の  
 むらさきもかきつらうら  
 七々の花の夜と月とをね  
 むらさきをねを青ねえ  
 天の川とささるまの枝のま  
 むらさきもかきつらうら  
 枝の夜とささるまの枝のま  
 むらさきもかきつらうら

能因法師  
 うらさきをねを青ねえ  
 天の川とささるまの枝のま  
 むらさきもかきつらうら  
 枝の夜とささるまの枝のま  
 むらさきもかきつらうら



良遣法師  
 うらさきをねを青ねえ  
 天の川とささるまの枝のま  
 むらさきもかきつらうら  
 枝の夜とささるまの枝のま  
 むらさきもかきつらうら



大納言  
 うらさきをねを青ねえ  
 天の川とささるまの枝のま  
 むらさきもかきつらうら  
 枝の夜とささるまの枝のま  
 むらさきもかきつらうら



藤子内親王  
 うらさきをねを青ねえ  
 天の川とささるまの枝のま  
 むらさきもかきつらうら  
 枝の夜とささるまの枝のま  
 むらさきもかきつらうら



源氏物語

七夕の心もあやふらふえ  
 ぬくもりの夕ぐせのそ  
 七夕は天降ひれ吹秋風ふ  
 八十のまゝのまゝの世に  
 七夕のあまの想をかきよむ  
 何れもまゝのまゝの世に  
 天降ひらく星の空を渡り  
 天の川を渡る川  
 織女の天衣を羽衣とちかか  
 ぬる衣すまゝに衣をぬぎ  
 七夕のまゝのまゝの世に  
 何れもまゝのまゝの世に  
 いまのまゝのまゝの世に  
 七夕のまゝのまゝの世に

七夕のあまの想をかきよむ  
 いまのまゝのまゝの世に  
 七夕のまゝのまゝの世に  
 何れもまゝのまゝの世に  
 天降ひらく星の空を渡り  
 天の川を渡る川  
 織女の天衣を羽衣とちかか  
 ぬる衣すまゝに衣をぬぎ  
 七夕のまゝのまゝの世に  
 何れもまゝのまゝの世に  
 いまのまゝのまゝの世に  
 七夕のまゝのまゝの世に

源氏物語  
 源氏物語  
 源氏物語  
 源氏物語



源氏物語  
 源氏物語  
 源氏物語  
 源氏物語



源氏物語  
 源氏物語  
 源氏物語  
 源氏物語



源氏物語  
 源氏物語  
 源氏物語  
 源氏物語



天の川あさせむまふまふ  
 うみてはる静のちり  
 秋もあそ天の川あそまはるの  
 ころそみとらる甲舎のそ  
 天の川あそまはるせうそ  
 そあそあかひる袖そ  
 天の川あかひる秋風あ  
 ちびくそ見れば時ハきあそ  
 若きまのまおの秋あそ  
 ふまそまおき静の橋  
 天の川あそ初秋のみとらるそ  
 そあそあそあそあそあそ  
 浪河のあそあそあそあそ  
 波あそあそあそあそあそ

竹のあそあそあそあそあそ  
 ひさあそあそあそあそあそ  
 年あそあそあそあそあそ  
 あああそあそあそあそあそ  
 かああそあそあそあそあそ  
 今ああそあそあそあそあそ  
 今ああそあそあそあそあそ  
 後ああそあそあそあそあそ  
 あああそあそあそあそあそ  
 七ああそあそあそあそあそ  
 侍ああそあそあそあそあそ  
 天の川あそあそあそあそあそ  
 天の川あそあそあそあそあそ  
 あああそあそあそあそあそ

源氏物語  
 徳院  
 源氏物語  
 徳院  
 源氏物語  
 徳院



源氏物語  
 徳院  
 源氏物語  
 徳院



源氏物語  
 徳院  
 源氏物語  
 徳院



源氏物語  
 徳院  
 源氏物語  
 徳院



秋とあそびあはれに静の  
 こころを撫のわたるは  
 静のこころを撫や七々の  
 ささげささげささげささげ  
 静よあはれもあはれ七々の  
 えぬ笑ひは涙りされば  
 めくさの神めおらん静乃  
 よやあはれささげささげささげ  
 久方の手あそびささげささげ  
 天は甲の秋もささげささげ  
 静の面をひいては静の面  
 をあはれささげささげささげ  
 静よあはれささげささげささげ  
 まれおささげささげささげ

静よあはれささげささげささげ  
 静の面をひいては静の面  
 をあはれささげささげささげ  
 静よあはれささげささげささげ  
 まれおささげささげささげ  
 静よあはれささげささげささげ  
 静の面をひいては静の面  
 をあはれささげささげささげ  
 静よあはれささげささげささげ  
 まれおささげささげささげ

静徳をなす  
 静よあはれささげささげささげ  
 静の面をひいては静の面  
 をあはれささげささげささげ  
 静よあはれささげささげささげ  
 まれおささげささげささげ



道因法師  
 静よあはれささげささげささげ  
 静の面をひいては静の面  
 をあはれささげささげささげ  
 静よあはれささげささげささげ  
 まれおささげささげささげ



世の中  
 静よあはれささげささげささげ  
 静の面をひいては静の面  
 をあはれささげささげささげ  
 静よあはれささげささげささげ  
 まれおささげささげささげ



静よあはれささげささげささげ  
 静の面をひいては静の面  
 をあはれささげささげささげ  
 静よあはれささげささげささげ  
 まれおささげささげささげ







明也け天の川流とちり  
 後のあふ原やたきまも  
 天阿一夜をかりはあ原こそ  
 流きき社代の植とちりめ  
 久留天の川流とちりめ  
 七夕はあひこころるまもん  
 九きのをのこり火のあて  
 甲女の空は月そくそく  
 雲秋うらうらきまもん天阿  
 ちのうま相のかくまもん橋  
 雲のあしおぬぬも天の川  
 やの海はあつゆは  
 ちともたうすはあもねむん  
 こふ梯も天の川夜

七夕はあもねむいふあて  
 一夜のゆふあははまもん  
 天の東をさる河の海しち  
 秋のあふ原やたきまもん  
 七夕はあひこころるまもん  
 こまひもりやもねむん  
 ちのうらうらきまもん  
 とあひののの夜く入さて  
 甲女の空は月そくそく  
 よもたててねむるまもん  
 枝よりさひやうれ七夕の  
 明もそくの天の相とちり  
 これもあふ原やたきまもん  
 いのふをさるまもん

式部内親王

玉の徳よ  
 子もえね  
 ちのうらうらきまもん  
 ちのうらうらきまもん



月せでるあ  
 わまの徳よ  
 わまの徳よ  
 わまの徳よ  
 わまの徳よ  
 股室門院大輔



後京極攝政大臣  
 ちのうらうらきまもん  
 ちのうらうらきまもん  
 ちのうらうらきまもん  
 ちのうらうらきまもん



我油  
 ちのうらうらきまもん  
 ちのうらうらきまもん  
 ちのうらうらきまもん  
 ちのうらうらきまもん



七夕の雲の上よりまのうぶ  
 らんごひてうねうね  
 宿をたねとらせや七夕の  
 あつげのきげの川の川流  
 宿のまの思ふをよそ  
 七夕のあつげの雲をよそ  
 あつげのひくひくかめの家  
 青の月の眉をひくひく  
 あつげの別れの涙をよそ  
 ひくひくひくひくかめの家  
 天河をよそひくひくかめ  
 七夕のあつげの雲をよそ

七夕の雲の上よりまのうぶ  
 らんごひてうねうね  
 宿をたねとらせや七夕の  
 あつげのきげの川の川流  
 宿のまの思ふをよそ  
 七夕のあつげの雲をよそ  
 あつげのひくひくかめの家  
 青の月の眉をひくひく  
 あつげの別れの涙をよそ  
 ひくひくひくひくかめの家  
 天河をよそひくひくかめ  
 七夕のあつげの雲をよそ

鎌倉右大臣

世の中

きりぎりす

おもしろ

はかで



春儀雅重

ふゆの

うら

な



花入道

おもしろ

な

は

か



花入道

おもしろ

な

は

か



七夕の夜の夜やねれぬえ  
 鳴りとけりて林の音  
 彦星のつらみと織姫の  
 たしひのあや天の川原  
 雲のあまの川原のま  
 りのまのまのまのまのま  
 月よりのまのまのまのま  
 星よりのまのまのまのま  
 かまのまのまのまのまのま  
 けまのまのまのまのまのま  
 まのまのまのまのまのま  
 まのまのまのまのまのま  
 まのまのまのまのまのま

七夕の夜の夜やねれぬえ  
 鳴りとけりて林の音  
 彦星のつらみと織姫の  
 たしひのあや天の川原  
 雲のあまの川原のま  
 りのまのまのまのまのま  
 月よりのまのまのまのま  
 星よりのまのまのまのま  
 かまのまのまのまのまのま  
 けまのまのまのまのまのま  
 まのまのまのまのまのま  
 まのまのまのまのまのま  
 まのまのまのまのまのま

棟納を定家  
 未ぬ人を  
 うれなれ  
 角のりや  
 かもま



正二位家澄  
 小川  
 人なれ  
 志



人なれ  
 う  
 人なれ  
 う



順徳院  
 百人  
 人なれ  
 う



新撰要字

伯父 叔父 従父  
 兄 弟 姉 妹  
 孫 孫子 孫女  
 婿 婦 娘  
 妻 妾 女中  
 主人 客  
 親 親戚  
 老 老翁 老妪  
 祖 祖父 祖母  
 宗 宗子 宗孫

伯父 叔父 従父  
 兄 弟 姉 妹  
 孫 孫子 孫女  
 婿 婦 娘  
 妻 妾 女中  
 主人 客  
 親 親戚  
 老 老翁 老妪  
 祖 祖父 祖母  
 宗 宗子 宗孫

原氏百

初春の  
 事  
 何事も  
 同  
 事

仲の  
 事  
 何事も  
 同  
 事

七二

身寄塔の標の存  
手元 多汗 以抄  
打標 以横 總能  
以智たろく 意 形く  
益 泳 色 景 以健  
以 舞 少 以 息 災 以 中 花  
限 又 一 入 目 吉 友  
鉄 一 く 瑞 音 重 重  
程 以 以 寿 中 速 披 舞  
推 卷 吹 陸 中 合  
本 屋 中 宜 意 意 合  
以 多 以 是 也 五 後 凡

早くと 五 冠 辱  
以 三 葉 子 亦 入 祥 依  
多 以 以 倍 接 瑞 瑞 瑞  
裁 瑞 瑞 瑞 瑞 瑞  
藤 末 荒 後 又 吾 京  
育 合 秋 下 進 上  
以 同 志 意 席 抄 揚  
以 多 以 五 以 礼 以 執 經  
以 同 人 以 以 以 以 以 以  
以 院 以 以 以 以 以 以 以  
未 終 母 以 以 以 以 以  
以 是 以 以 以 以 以 以

原氏百人

白 事  
一 物 心 事  
山 心 心 心  
答 意 心 心 心  
心 心 心 心 心  
心 心 心 心 心  
心 心 心 心 心  
心 心 心 心 心  
心 心 心 心 心

今 日 的 萬 葉 集  
心 心 心 心 心  
心 心 心 心 心  
心 心 心 心 心  
心 心 心 心 心  
心 心 心 心 心  
心 心 心 心 心  
心 心 心 心 心  
心 心 心 心 心

七



同向 善能 有在位牌  
 戒名 母 延時 續經  
 念佛 部目 菅云  
 石壁 初 法抱  
 孝公 妙別 引極  
 山別 法辨 德  
 世帯 法徳 目録  
 于朝 昆赤 厨牙  
 白髮 痛二 内志  
 長後 帯代 錫 娘乳  
 山樂 入 法言 法浩  
 山儀 式 法慈 波是

首尾 能 憐形 杖  
 万歳 末水 何角  
 都合 互 長交 志意  
 以所 用 法是 安塔  
 以縁 組 志意 縁来  
 以教 車 後 縁来  
 以懐 雅 法 懐始  
 乃子 帯 平産 安産  
 以延 生 小寛 以安 礼  
 以公 易 聖善 芳 縁来  
 以途 之 山 縁来 出 縁来  
 法 事 宮 以 上 系

可 奉 御 御  
 歳 事 御  
 志 事 御  
 信 事 御  
 事 事 御  
 日 志 事 御  
 上 事 御  
 事 事 御

信 事 御  
 事 事 御  
 事 事 御  
 事 事 御  
 事 事 御  
 事 事 御  
 事 事 御  
 事 事 御







万代の  
書

名物 三幅對 畫具  
 燭臺 大張子  
 筆筒 煙草室 火鉢  
 鹽 葛籠 長持 香燭  
 帷子 手紙 袷 湯桶  
 織機 鞍及 湯瓶  
 裁下 漆器 信好  
 定波 海標 仕立  
 襦袢 袴 袴  
 襦袢 袴 袴

色紙短冊寸法并書様

和歌の 田島  
 浦子 吟  
 五不 吟  
 あんこ 吟  
 小色紙の  
 横六寸  
 縦六寸  
 横六寸  
 縦六寸

色紙の寸法は、  
 短冊の寸法は、  
 短冊の寸法は、  
 短冊の寸法は、

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

書肆

羽州山形十日町

北條忠兵衛

短冊の寸法は、  
 短冊の寸法は、  
 短冊の寸法は、  
 短冊の寸法は、

